

ニュースレター



すごいじいー！
夏休みの
自然史資料館



いしかわ
レッドデータ
ブック
2020



message

ふたつの特別企画：コロナ禍での活動報告

コロナ休館は、昨年は4.11～5.24（44日間）でしたが、今年はすでに5.12～6.13と7.31～9.30（合計95日間）が休館です。コロナ禍での活動をふたつ報告します。ひとつは、国際博物館の日（5.18）と国際生物多様性の日（5.22）にちなむ「自然史資料館オープンミュージアム2021」です。今年（第3回）は、オンラインでワークショップをふたつ実施しました。「いしかわのレッドデータブック2030の刊行にむけて～なぜ必要か、どう実現するか」（5.22）と「第3回みんなで作る地域のミュージアム」（5.23）です。関連展示「みんなで作った『いしかわレッドデータブック2020』」（5.1～5.31）は、ほとんど休館と重なり残念でした。

もうひとつは、子どもからシニアまで、夏休みを楽しみ、学ぶための特別企画「すごいじいー！夏休みの自然史資料館」（第2回、7.10～8.31）であり、①夏休みの展示（植物、動物、地学）とオープンミュージアムの展示（上記を延長）、②かんたん工作、③子どものためのミニ講演会（学芸員による「カブトムシのひみつ」、「虫をさそう花の工夫」、「化石のはくつのはしかた」）、④学芸員が夏休みの自由研究などにこ

たえる質問・相談コーナー（ミニ講演会と同日）を実施しました（①と②を本紙2～3ページに再録しました）。「野外体験：ギリギリをつかまえてみよう」は中止、「体験講座：植物けんさくずかんをつくろう」と講演会「学芸員が語る～自然史資料館の歩みとこれから」は延期しました。

コロナ禍は、すぐに収束しそうもありません。禍を転じて福となすよう、オンラインやビデオの活用など、工夫をこらしてゆこうと思っています。

（館長 中村浩二）

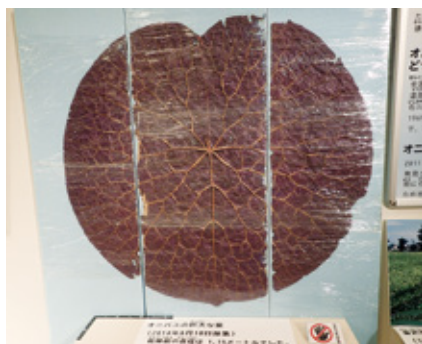


活動



植物分野

絶滅危惧植物を守るために活躍する
スゴイ人たちを知ってほしい！



巨大なオニバスの葉の展示



生体展示したオニバス



オニバスの生長の様子がよく分かる
標本・写真がいっぱい

前号 (No.16) の記事「資料館の応援団」で、地域の自然に詳しい人々について書きました。夏休み展示「絶滅してなかったオニバスの謎に迫る！」では、その強力な応援団員の本多郁夫さん（石川県絶滅危惧植物調査会）が、絶滅危惧植物オニバスの貴重な標本や写真、解説を提供してくれました。1 m以上もある葉の乾燥標本は初公開でした。巨大で、刺のあるオニバスを標本にするのは、並大抵の苦勞ではできません。生体展示もありましたが、それは本多さんが自宅で栽培しているものです。

本多さんはオニバスに限らず、多くの植物を栽培し、日々観察しているので、植物の生態にとっても詳しいのです。本多さんのすごさを伝える今回の展示が途中でご覧いただけなくなり、残念でなりません。同時開催していたオープンミュージアム関連展示「いしかわレッドデータブックをめぐる植物屋さんたち」でも紹介した本多さんたち応援団員のことを、今後も発信したいと思います。

(副館長 中野真理子)

活動



動物分野

昆虫採集のすすめ
～ 採集トラップに挑戦 ～

動物分野では、「昆虫採集方法いろいろ」というテーマで、身近なものを使った採集トラップの作り方や方法などを紹介しました。特におすすめのトラップは、「ペットボトルトラップ」です。作り方は簡単で、飲み終わった2 Lのペットボトルの上部（口に近いところ）を切り、逆さまにして下部にはめこんで固定するだけで完成です（カモフラージュのために色を塗るとさらにgood）。中に糖蜜を入れて木にセットすればカブトムシ用のトラップに、煮干しやソーセージを入れて池にしかければゲンゴロウなど水生昆虫用のトラップになります（トラップは必ず回収すること）。作り方を覚えれば、これからの昆虫採集にきっと役立つことでしょう。

採集トラップに興味のある方は当館までご連絡ください。また、昆虫採集のイベントも毎年行っていますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。
(学芸員 嶋田敬介)



2Lペットボトル(左) から簡単作製、
昆虫採集トラップ！(右)



展示の様子



大桑層産クジラ類化石 ～ 石川から出たすごいお宝～



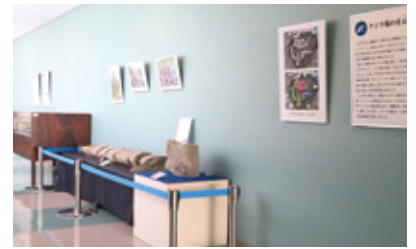
母岩中の背骨の骨端部

地学分野としては、金沢市大桑町を流れる犀川周辺に分布する大桑層から2014年に発見された、当館の最も重要な標本の一つであるクジラ類の化石を紹介しました。全長2メートルを超える下顎骨をメインに、背骨

の骨端部や、一緒に発見されたサメ類の歯やオニフジツボを展示しました。骨は母岩であるノジュールの中にまだ入っているままの状態ですが、断面を見ることによって、中に骨が含まれていることがわかります。

今回はコロナ禍で多くの方々に見ていただくことはできませんでしたが、骨化石から母岩を取り除く剖出作業を完了し、再び展示をして、みなさんにお見せできるようにしたいと思います。

(学芸員 桂嘉志浩)



展示の様子



下顎骨

楽しんでいただこうと、コロナの心配無しにできる、工作ブースを出しました。「モーターの赤ちゃん」「わっ、クモだ!」「生きものペーパークラフト」の3つです。臨時休館が長くて残念でした。



モーターの赤ちゃん

お父さんお母さんが生徒だった昔、理科の授業で作ったことがある(?)クリップモーターの素材を準備しました。親子で仲良く、ご家庭でお作りください。

わっ、クモだ!

コガネグモのかんたん紙工作。型紙をつまみ取って、折るだけで出来上がり。ひばって取った糸をお尻にくくりつけます。



団体系の きまぐれコラム

虫テロとの 戦い

敵はコガネムシ。アオドウガネという。我が家のアジサイを食いまくり、アジの中骨にしやがった。アジサイは有毒で虫も食わないというし、実際そうだった。去年、アジサイを食うこいつを見て珍しいと思ったが、今年はまさかの大発生。戦いが始まった。

もともと黄金虫は好きだ。金蔵を建てるほど金持ちだし。いたら、「盆に金もってこい」と唱え、放り上げて逃がしてやる。それにアオドウガネは、蛍光灯の下では目が覚める緑色で美しい。敵になって残念だ。

この夏、200匹は退治した。戦法は、手で捕って潰す。ところがこいつ、気配を察してすぐ落下する。落ちたら、まず見つからない。1匹捕ったら周りの4匹がぼろぼろ落ちる。ああ! 勝った気が全然しない。
(教育普及 石丸信一)



アオドウガネ

蛍光灯の下のアオドウガネ。すごい緑色。見る方向で変わるので、色素ではなく表面構造による構造色なのだろう。



大事なアジサイ。ウズというかわいい品種。なんぼなんでも、こりゃひどい!

イチ押し收藏品

自然史資料館には樹木の幹の標本があります

植物標本は押し葉にして保存することがほとんどですが、樹木の幹は押し葉にできないので、切った幹の状態乾燥させて標本にします。そのような木材の標本があると、材の断面や木材組織の特徴を調べることができます。木材標本は木を伐採しなければいけないので、簡単には製作できません。

当館には、石川県巨樹の会が製作した56点の木材標本コレクションが収蔵されています。県内の主な樹種を選び、同じくらいのサイズに揃えて作製されたものです。年輪の様子や、材の色、ルーペなどで拡大すると見える道管の孔の大きさや位置など、材面からわかる様々な特徴を観察することができます。そのため、押し葉ではわからない樹木の特徴を学ぶ学習教材として大変役立ちます。

木材標本は製作が困難で、広い収蔵スペースが必要なので、収蔵施設は全国的にもほとんどありません。木材標本コレクションは当館の貴重なイチ押し資料です。

(副館長 中野真理子)



木材標本コレクションを紹介した過去の展示の様子



切り方を工夫して、
違う角度から材面を
見ることができるよう
に
作製されています。

お知らせ

企画展 雑草

雑草を知る！
学芸員が選んだ雑草 50 選

入場無料

会期

開催中

～ 2022年 1月 16日 日

場所

2階企画展示室

数多の雑草から学芸員が厳選した 50 種をイラストパネルで紹介します。雑草たちそれぞれの生き方を知れば、つきあい方がばっちりわかります。いたるところで雑草を見かけて、「何て名前だろう?」「退治したい!」「かわいいな!」とか思っていないですか。きちんと雑草を知り、つきあっていく助けになる展示です。

利用案内

開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 / 12月29日～1月3日

入館料 / 無料
駐車場 / 完備 (大型バス駐車可)

交通案内

《バスをご利用の場合》

金沢駅東口バスターミナル

『12 湯涌温泉ゆき』または
『12 北陸大学薬学部ゆき』または
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』
→【銚子口下車】→徒歩約10分

『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または
『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大学太陽が丘下車】
→徒歩約10分

石川県立自然史資料館

〒920-1147 石川県金沢市銚子町144-1

TEL : 076-229-3450 FAX : 076-229-3460 <https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>

